

関西聖書学院 小論レポート集

第2号 ¥560

発行日 2006.2.23

目次: 三位一体論

稲岡賜子 1

大嶋善直 3

岡田そら 8

久保かおり 10

相良証子 14

松本マナ 19

村林かなえ 23

目次: 千年期前・大患難後再臨説

兼松道子 27

木下奈々 30

能登貴晴 34

門谷院一 37

「子としての立場とその回復」
布目麻矢 41

常に “学習効果” を検討しながら一試行錯誤!

主の御名を崇めます。今回も、神学生有志の協力を得て、ここに二回目の「関西聖書学院小論レポート集」を作成できましたことを感謝申し上げます。

今回は、これまでの「**テーマの自由設定**」の形式を変えさせていただき、学年ごとにテーマを設定させていただきました。一年生には「キリスト教会は、どのようなプロセスを経て、**三位一体の信条**を形成していったのか。その聖書の基盤、歴史的展開をおさえつつ、正統信条の確立を整理しなさい。最後に、三位一体論確立についてあなたの感想を記述しなさい。」二、三年生には「千年王国説の中にある『ディスペンセーション主義にたつ前千年王国説』と『**歴史的な前千年王国説**』を比較検討しなさい。そして大患難前再臨説と大患難後再臨説を比較・評価し、**なぜエリクソンが後者の**



夕日のシルエットに映える解体直前の旧校舎

立場に立つのかを説明しなさい。また、それに対するあなた自身の評価・意見・感想を記述しなさい。」という設定でした。

毎回、試験内容や形式、そして配点を少しずつ変えていっています。それは、どのように工夫すれば**“学習効果”**があがるのかを常に検討しながら取り組んでいるからです。

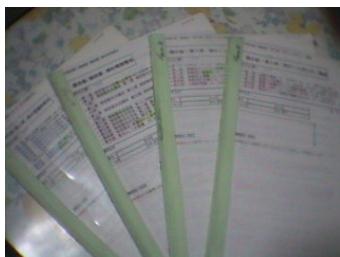
神学における「十字架経験」もまた、学んでほしい!

今回、一年生にテーマを設定したのは、感想文レベルになりやすい「個人のテーマ設定」の限界を少し感じていたからです。テーマを設定し、掘り下げて勉強すべき課題と領域を明示することを目指しました。二、三年生に対しましては、取り組みやすいテーマに流れやすいことを感じていましたので、「最も議論のある終末論の、それも千年王国の、大患難期のいつキリストは再臨されるのか?」という**難問に正面から取り組む**ことを求めました。このテーマに取り組むときに、神学

生ひとりひとりの信仰はいろんな意味でゆすぶられたことと思います。所属する群れの立場、聖書解釈の原則、多様な立場が生れる背景、よりベターな選択を迫る力の経験、そうです。エリクソン神学は私たちの信仰を**解体**することを経験させ、より聖書的な神学を**再構築**することを経験させるのです。それこそ、**神学をするという経験**であり、**神学における十字架経験**なのです。

(編集責任: 安黒 務)

小論レポート—引用の巧妙さで勝負！



1.予習・2.講義・3.復習・4.小論レポート・5.小論レポート集の充実した Five Fingers Study

__今回のレポートは、テーマを決めさせていただきまして、神学生各自には窮屈な思いをさせたかもしれません。掲載を了解してくださった神学生の答案の中にも、「引用抜粋が多いのですが、掲載させていただいてよろしいのでしょうか？」というメモ書きが添えられたレポートもありました。そのような思いを抱かれる方が今後もあると思いますので、「小論レポート」に対するわたしの考え方を述べさせていただきます。

__卒業論文指導のときに、いつも語っていることの繰り返しになりますが、「自分の論文を進めるのに有力と考えるなら、**遠慮なく引用すべき**です。まだ神学を学びはじめて数年なので、独創的な見解がつつぎ

とでてくるはずがありません。**先輩の研究の成果の巧みな引用**によって序論にて設定された『問い』に関連して議論を発展させ、ひとつの結論に導いていくのです。神学生の場合、**引用の巧妙さは、それ自体ひとつの業績**なのです。

__ボエトナーは名著「改革派予定論」の緒言の中で「要するにわたしは**他人の花園から色々な花**をつみ集めて束にした。わたし自身のものといえば、**ゆわえてある紐**ぐらいなのだ。」と言っています。

__その昔、わたしが共立基督教研究所で学んでおりましたとき、恩師の宇田進教授は講義の合間に「ウエストミンスター神学校のジョン・マーレー教授は、神学生のレポートや答

先の者は後になり、後の者が先になる

案に対して、「**一字一句、講義で教えた通りに記述**しないと点数をもらえない先生でした。」というような話しをされたのを聞いたことがあります。マーレー教授の精緻な聖書釈義に対するゆるぎない確信を表しているものでしょうか。

__わたしはエリクソンの神学を学んでいて思いますことは、神学の世界では「先の者は後になり、後の者が先になる」ということがよくあるということです。いわんとしますこと

は、前もって「ひとつの神学的知識」が入っている人は、エリクソン神学を学び始めますと、まずその**先入観の「解体作業」**を経験するということです。それにはあるときには「苦痛」を伴いますがそれを許容せずして学びは不可能です。。かえって、「白紙」の状態からエリクソン神学を学ぶ人の方が、「乾いた砂に水がしみ込む」ようにスムーズな学びが身についていきます。



誰でも、何時でも、何処でも学べる『キリスト教神学』講義DVD全集も完成！

広範な視野から、見つめる目を養う

__結論的には、すべての神学生がエリクソン神学の立場にたつことが必要だとは思いません。「三位一体の教理」の場合は、三神論や単一神論にふれることはゆるされませんが、「終末論の教理」において「千年王国説」で後千年王国説、前千年王国説、無千年王国説のどれにたつのか、また「大患難とキリストの再臨の時期の問題」において、大患難前再臨説と大患難後再臨説のどちらにたつのかは、本人の問題であるとともに、所属教会や教派の立場との関連もありますの

で物事はそれほど単純ではないと思います。

__ただ、どのような立場にたつとしても、わたしの願いとしては、**広範な視野から「議論の分かれる問題」**を見つめる目を豊かに養ってほしいということです。なにも知らないで「ひとつの立場」にたっているというのと、すべてを理解した上で「ひとつの立場」にたっているというのでは、そこに大きな違いがあると思います。

ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。(エペソ 4:13-14)